



観音菩薩立像

重要文化財
木造 彩色・漆箔・截金
像高166.5cm
平安時代(10~11世紀)
大阪 観心寺

空海の高弟実恵とその付法の弟子真紹により開創された観心寺は、如意輪観音像を秘仏本尊とする密教美術の宝庫である。同寺には、等身大の観音立像が6軀存するが、なかでも本像は洗練された作風と華麗な彩色が目を引く美作として知られる。

腹部から大腿部にかけて量感ゆたかな側面観や、着衣に刻まれた翻波式衣文は、平安時代前期の重厚な作風を継承する。一方で伏し目のおぼろな表情、柔軟な身のこなしと軽快な裾裾のさばき、一本造ながら深く内削りをほどこす構造には、平安時代後期へとつながる要素があらわれている。像本体と共木からつくる丈高の円筒形宝冠や、三日月状を呈する腹前の短い折返しもふまえ、10世紀末から11世紀初めころの造立と考えたい。

色鮮やかな着衣もまた見どころであり、白下地に植物文や幾何学文を駆使した彩色文様を重ね、さらに裾の一部には截金で二重斜格子文を置く。こうした白下地彩色を基調としつつ部分的に截金を併用する手法は、奈良・新薬師寺十一面観音像や同・法隆寺夢殿安置の聖観音像にもみられ、やがて平安時代後期に一世を風靡する截金文様で着衣を埋め尽くす感覚とは明らかに趣を異にしている。大和に隣接する観心寺の地理的条件を考え合わせれば、本像の表面仕上げにも奈良地方の趣向が反映されている可能性がある。

近年の調査で近赤外線撮影を実施したところ、宝冠正面に墨で描いた坐化仏が見いだされた。これにより、当初から観音菩薩像として造立されたことが、あらためて確かめられた。

山口 隆介 (当館学芸部研究員)

◆6月28日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

展示品の みどころ

舍利厨子

木製 彩色
高12.1cm 最大径7.8cm
南北朝時代(14世紀)
大阪 施福寺



展示室で実物をご覧になった方は、その小ささと細工の緻密さに驚かれるに違いない。

本品は釈尊の遺骨とされる舍利を安置するための厨子で、舍利に擬した六角形の水晶製五輪塔が中心に安置される。これを四天王が囲んで護持する形式で、舍利が礼拝できるよう正面と側面に扉が取り付けられ、扉には舍利を供養する図などが、奥壁には釈迦が入涅槃(現世での死)の後に甦って母のために説法したという金棺出現の図が描かれている。礼拝の際には扉が開かれて舍利を讃歎供養する図が展開し、使用しないときには円筒形に小さくまとまる仕組みである。

本品は実は長らくばらばらの状態で伝わっていた。数年前に地元の美術館で行われた展覧会でも痛々しい姿で展示されることとなり、これを契機に修理の話が進展し、平成23年度に住友財団の助成を得て、当館学芸部の指導の下、美術院の手によって保存修理が実施された。

幸いほとんどの部材が失われることなく伝わっていたのだが、足りない部材もあり、それは今回補われた。正面向かって右の扉と、同じく四天王立像(持国天像)がそれで、持国天像は、それ自体礼拝の対象でもあることから彩色を施し、古色もつけて、他の像と同じように表現された。一見では補作であることがわからないほどなので、是非目を凝らして見比べていただきたい。

なお、用材の樹種の調査も行われ、本体部分は香木として知られるジンコウ(沈香)が使用されていることが明らかになった。従来濃密な香気を放っていたのだが、ようやくその正体がわかったのである。

部材が組み上がったため、奥壁画や天蓋部分の垂飾などが見えづらくなってしまったのは玉に瑕だが、やはり形あるものは、本来の姿こそが最も魅力的である。

清水 健 (当館学芸部主任研究員)

◆4月21日~5月24日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

開館日時(4月~6月)

■開館時間 / 午前9時30分~午後5時
・4月24日(金)以降の毎週金曜日は午後7時まで
※入館は閉館の30分前まで

観覧料金 特別展「まほろしの久能寺経に出会う平安古経展」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,200円	800円	500円
団体・前売	1,000円	600円	300円

※団体は20名以上です。
※前売券の販売は4月6日(月)まで。
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※特別展観覧券で名品展も観覧できます。

■休館日 / 毎週月曜日
(5月4日は開館し、5月7日(木)は休館)
■無料観覧日(名品展のみ) / 5月5日(こどもの日)と5月19日(国際博物館の日)は、名品展の観覧料金が無料となります。

観覧料金 名品展・特別陳列

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※団体は20名以上です。
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
※青銅器館は無料です。
※なら仏像館は、改修工事のため休館中です。



(交通案内) 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

